

スクールミーティング意見交換内容について(学校評議員、PTA役員等からの提案・要望)

日時：平成25年1月18日(金)午後7時00分～午後8時30分 場所：日吉東小学校

参加者：熊本市教育委員長、教育委員(3名)、教育長、学校評議員(5名)、PTA役員(5名)、学校関係者(2名)

No.	提案者	提案・要望等	回 答	提案・要望等を受けての 今後の対応方針	担当課
1	PTA	○災害対策について 国土交通省作成の白川洪水ハザードマップでは、浸水予測が平面状に示されているため、避難所である日吉東小学校に避難しても、水深がどこまでくるのかわかりづらい。立体的な表示はできないのか。 避難所の備蓄の規模はどれくらいか。	市内ほとんどの学校が一次避難所に指定されている。平成24～25年度で備蓄倉庫の整備を行う。(教育長) 平成24年度は北区と西区の小中学校を中心に、平成25年度は南区、東区、中央区を中心に備蓄倉庫の整備を行う。倉庫の大きさは、およそ幅2m、高さ2.2m、奥行1.8mで、数百人が2日間過ごすのに必要な非常用の食糧、毛布20枚、カセットガスコンロ、発電機、災害用の救急セット等を整備する。 ハザードマップの件は、危機管理防災総室に想定があるのか確認する。(教育委員会事務局)	行政で作成しているハザードマップは、危険箇所や被害が予想される大まかな区域が示されているが、表示されているのは過去の災害から想定される最大被害であり、実際に水がどこから溢れてくるか、どう逃げたらよいか等、それぞれの地域における被害や避難の詳細を知ることはいくつかできない。 このような中、平成24年度に「地域版ハザードマップ作成手引書」を作成し、平成25年度からこの手引書を活用し、地域独自のハザードマップ作成をそれぞれの自治会単位で進めることで、「自らの身は自らで守る」という自助と、地域住民が助け合う共助の意識を涵養するとともに、災害時の安全な避難経路や一時避難場所の明確化に取り組むこととしている。また、作成したマップを学校等への掲示や地域の皆様に周知することで地域の防災力を高めていきたい。 ご提案のあった、想定される水深の立体的な表示は、共助の取組みとして、この地域版ハザードマップ作成時に地域の中で共に考えてまいりたい。	危機管理防災総室 教育政策課
2	学校評議員	○部活動について 部活動は社会性、人間関係力をつけるという点で有効だと考える。一方先生や保護者の負担、安全性や指導者の確保の問題もある。社会体育や中学校との連携を考える余地はあるのか。	部活動は学校教育活動の中の一部であり、ここから学ぶことは大きいと考える。小学校で部活動を行なっているのは全国的にも珍しい。ただ過熱があってはならない。熊本市部活動指針の中で、部活動を推進しているところである。中学校においては、指針を超えて活動を行っている部も多い。今後も指針の堅持を進めたい。 また、現在外部講師として大学生に入ってもらっている。社会体育については、総合型スポーツクラブがあるが、うまくいっているところとそうでないところがある。中学校との連携については現在行っておらず、今後検討していく。(教育長)	部活動の実施にあたり、子どもたちの発達段階等を考慮し、練習日数・時間等が部活動指針で定められており、指針の堅持を進めていく。 指導者については、教職員だけでなく、外部指導者(24年度：約300名)や運動部活動ボランティア(24年度：14名)なども関わっており、今後継続を図っていく。	健康教育課
3	学校評議員・PTA	○部活動について 日吉東小学校は器楽部の活動が盛んであるが、日吉中学校に器楽部がない。日吉中学校に陳情も行っている。中学校にも器楽部を作ってほしい。保護者の中には、自分達でバンドを結成しようという動きも出てきている。(PTA) 自分の子どもも器楽部に所属していたが、中学校では器楽部がないため別の部活動に加入した。結果的に最後までやめずに続けた。例えば中学校で器楽部がなく、別の道を進んでも子どもにとってよい影響を与えることもある。(学校評議員)	教育には様々な方法があり、児童生徒に対して多くの選択肢を用意したい。作ってほしいという思いは伝え続けると同時に、希望通りの部活動ができない場合もあるという現実も受け止めてほしい。(教育長)	部活動の設置は、学校判断となるが、学校の職員体制等の実情もあり、希望に応えられない現状がある。しかしながら、部活動は、学習意欲の向上や責任感、連帯感の醸成等に資するものであるため、外部指導者の活用といった運営上の工夫や別の部活動への加入も含め、学校と十分に協議を行うとともに、今後も学校部活動の振興にご協力いただきたい。	指導課

No.	提案者	提案・要望等	回 答	提案・要望等を受けての 今後の対応方針	担当課
4	P T A	○コミュニティセンターについて コミュニティセンターを建設してほしい。	市では、コミュニティセンターの設置を小学校区単位で進めており、日吉コミュニティセンターは日吉小学校に隣接されている。日吉東校区のコミュニティセンター設置の要望があったことを担当課に伝える。（教育長）	日吉東校区においては、平成20年10月に校区自治協議会から健軍消防署平田出張所隣接の市有地を建設希望場所としてコミュニティセンター建設の陳情書の提出がされている。 しかしながら、当市有地については26年開所予定の（仮称）南消防署が建設されることとなっており、コミュニティセンター誘致ができない状況になっている。 今後は、担当課である生涯学習推進課、南区役所のまちづくり推進課へ相談いただきたい。	生涯学習推進課
5	P T A	○学校のトイレについて 和式トイレが多いので、洋式トイレを増やしてほしい。新設校も和式トイレが基準となっているのか。	和式トイレのみの学校は、洋式トイレを整備する計画を実施したところ。新設校は、洋式トイレ中心になってきている。（教育長）	日吉東小学校については、他校と比べ洋式トイレが少ないため、今後整備する方向で検討したい。 なお、現在建設中の新設校については、洋式トイレを中心に設置している状況。	施設課
6	P T A	○エアコンの設置について 4年生以上はランチルームで毎日給食を食べているが、夏場は暑くて給食を残す子どもが増える。ランチルームにもエアコンを設置できないか。	エアコンは図書室まで整備しているが、財政的に厳しいため教室は扇風機で対応している。ランチルームへの設置もなかなか難しい。（教育長）	学習環境改善のために、小・中学校の普通教室と音楽室に扇風機を、また図書室へはエアコンの設置を行ったところ。その他の教室へのエアコン導入については、現時点では困難である。	施設課
7	学校評議員	○教員の異動について 日吉東小学校は、学校と地域の連携がとれている。評判のよい先生は早く異動してしまうので、もう少し長く勤務してほしい。	人事異動の原則は、1つの学校の勤務年数を7年までとしている。さらに、市内を区に沿って5つに分け、1つの地域に15年を超えて勤務しないようにローテーションを組んでいる。先生にはいろんな地域の学校を知ってもらいたい。熊本市では、平成25年度新規採用職員を59名採用する。指定都市移行に伴う人事権移譲を大いに活用し、熊本市の教職員を育てていきたい。（教育長）	小・中学校の教職員の異動は、教職員等異動方針及び異動細則にのっとり行っており、今後も適材を適所へ配置し、職員組織の適正化のため人事交流を積極的に行う。 （期間についての細則） ・同一校7年以上及び同一地域内15年以上の者は優先的に異動を行う。 ・同一校2年未満及び新採3年未満の者は原則異動を行わない。	教職員課
8	P T A	○平成25年度の夏休みのプール開放について 次年度のPTA役員の新体制の準備をしたいが、プール開放について市PTA協議会から話がない。未然の防止と事故発生後の対応をセットにして、なるべく費用のかからない方法でプール開放ができるようなガイドラインを早急に作成してほしい。	今後もプール開放は続けたい。まずは安全確保が第一である。現在市PTA協議会と教育委員会で検討しており、早急なガイドライン作りに努めたい。（教育長）	次年度のプール開放に向けて市PTA協議会との協議を行っている。その中で、ガイドライン、マニュアル等の作成を行っている。 市PTA協議会が各学校のPTAに対して「プール開放等の説明会」を計画しており、その場でガイドライン、マニュアル等を示す予定である。	健康教育課
9	P T A	○児童数の増加について 校舎は2階建てで、1学年2クラスを想定して建設されているが、プレハブが常態化している。今後も人口増が考えられるので、気にとめてほしい。	この学校を建設するにあたり、校舎を高くしないでほしいという意見を踏まえ2階建ての校舎になっている。平成7年の建設当時は、1クラスの学級編制基準が40人で計算されており、現在のように少人数学級ではなかった。今後も国の動きや子どもの数の動きを注視していきたい。（教育長）	日吉東小学校には、現在、学級増に伴いプレハブ教室を4教室設置している。今後、児童数・学級数の将来推計を見極めていきたい。	施設課

No.	提案者	提案・要望等	回 答	提案・要望等を受けての 今後の対応方針	担当課
10	学校評議員	○幼保小連携について 幼保小連携を年２回実施しているが、参加しようにも当日保育士は保育園を休むことができず、なかなか全員が参加できない。幼稚園や保育園の先生も子どもの成長が気になるので、小学校の先生と交流する機会を設けてほしい。昨年は日吉東小学校の職員３０名が保育園を訪問していただき大変嬉しかった。	幼保小連携の日をさらに充実させるために、日程の設定等、制度面から教育委員会でできる部分は行っていきたい。また、地域で解決できることは地域で行ってほしい。改善できることを考えていきたいので、具体的なお意見を寄せていただきたい。（教育長）	幼保小連携については、お互いの現状を認識し、地域で生活する幼児・児童について共通理解を図り、長期的展望に立った教育の実現に向けた有意義な取組である。 しかしながら、幼稚園・保育園、学校それぞれ運営面での調整が難しい状況がある。 地域の実情に応じた運営上の工夫について地域で協議するなど、幼保小の円滑な接続及び連携充実に向け、今後も更なる取組充実にご協力いただきたい。	指導課